

年間第二十三主日

2014. 9. 7

マタイ18・15-20

呉 大一神父

いつの間にか、9月になりました。私たちの教会は9月を殉教者の月として過ごしています。わたしたち皆、殉教者たちの信仰を見習って、私たちが主に従うために捨てなければならないものは何かを考えながら、それを捨てることのできる様にお恵みを願いましょう。

今日の福音に書かれているマタイ福音18章は、教会がどうすれば良いのかを提示しています。まず、前半部（1-14節）では、教会は特別に「小さな人」に関心を持つべきであると強調していて、後半部（15-35節）では、教会が何よりも赦しと和解を実践する「兄弟の共同体」でなければならないということを強調しています。

特に、今日の福音は、信者共同体の現実を指摘することと同時に、理想的な共同体の枠も提示しています。今日の福音の前半部は兄弟が罪を犯すなら直してやること、とのお言葉であり（15-18節）、後半部は共同体と一緒に願うなら神様が叶えてくださること、とのお言葉です（18-20節）。

私たちは、教会の中で、熱心に信仰生活をする際、教会の組織や他の信者さんの姿に失望したりすることがあります。そして、それ以上教会にいられなくなる場合もあります。

しかし、わたしたちが携わっている地上の教会は、まだ完成された共同体ではありません。教会は聖なる共同体であります。同時に、人間的な要素をそのまま持っている、未完成であり、たくさんの欠点を保有している共同体なのです。

教会も人間の共同体であるので、罪を犯して、過ちを犯した人がいるはずで

す。この点、今日の福音は、共同体の中で過ちを犯した兄弟をどう赦して、受け入れるべきであるのかを良く説明してくれます。

まず、過ちを犯した兄弟が恥をかくことの無いように、二人きりで話すようにと教えます。

そして、忠告を受け入れないとき、2、3人の証人をお連れして話し合い、それでも聞き入れない場合、教会に知らせ、教会の話も聞き入れなければ、異

邦人や徴税人のように扱うようにと厳しく教えます。

これは、教会の忠告さえも受け入れずに、正しい道に入ろうとさえしない者たちには、それが自らの責任であることを強調することです。

すなわち、何度も機会を与えてあげたにもかかわらず、これを無視して、悔い改めをしないでいる人々は、彼らの責任が大きいとのこと。

しかし、そうするとしても、共同体の責任がまったく無い、との意味ではありません。

また、教会の重要な特性は 共同体性であります。心を合わせて一緒に祈るということは、共同体の交わりを現すことなのです。罪人たちの回心と忠告のためのお祈りは、初代教会の共同体の大事な義務でした。

初代教会の共同体は神殿でだけではなく、家でも一緒にお祈りをささげていました。

祈りは、教会共同体がキリストの姿に似ていく重要な手段であったのです。即ち、教会が単純な人間的な集まりではなく、真の信仰の共同体として、一致と交わり、そして、福音を実現する力の原動力は、直ちに、祈りにあったのです。

従って、祈らない共同体は 真の意味の共同体とは 言えません。

また、教会共同体の中で発生しやすい数多くの問題も、祈りを通して解決できます。

祈りは 私たちが師匠であるキリストに一番よく似て行く方法であります。実際にイエス様もいつも弟子たちの前で祈られるお姿をお見せになったのです。

一方、こんにちの多くの人々は、私たちの教会があまりにも世俗化されたと心配しています。

教会が大型化され、物質文明の影響によって、内的なところより外的なところにもっと執着している、とのこと。

まさに 教会は 外的な建物ではなく、共同体であることです。

しかし、一緒に過ごしていると言って、すぐに共同体になるわけではありません。共同体になるためには、心を一つにして一体になる一致と愛が前提とされなければなりません。しかし、こんにち、私たちの教会はそのような姿とは 距離がだんだん遠くなっているようです。教会が教会らしい姿、そして、世で光と塩の役を忠実に果たすためには、祈る共同体の姿を持つべきです。

祈らない共同体は ただの人間的な集まりに転落する可能性が大きいのです。

このような意味で、私たちの家庭も同じです。祈らない家庭は、決して聖家族になれません。どんな共同体であっても問題がないわけにはありません。しかし、大事ななのは、その問題の解決方法が何か、ということです。祈りを通して、愛と一致、赦しの観点、即ち、イエス・キリストの観点で問題を解いていかなければならないのです。

人間が解決できない問題も、祈りを通して解決しやすくなったりもします。祈りは基本的な信仰の表現であり、信仰とは、神様に信頼する生を意味します。

果たしてわたしは、教会共同体、そして、自分の家庭、自分自身に問題が生じた時、どんな方法で解決しようとするのか、もしかして、すべてを人間的な方法だけで解決しようとはしていないのか、省みてみましょう。

最後に、今日の第二朗読のみ言葉でお説教を終わらせていただきます。

「互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。人にするべき義務をすべて行いなさい。しかし、どうしても果たすことはできない義務が一つあります。それがまさに愛の義務であります。（韓国の共同翻訳聖書）」

このみ言葉のように、高円寺教会がお互いに愛し合う共同体になりますように祈ります。